

令和 3 年度

在宅医療・介護連携支援センター報告書

(村上市)

団体名 村上市地域包括支援センター

代表者名 田中 加代子

1 報告

在宅医療・介護連携支援センターとして、個別事例の相談対応を行いました。また、介護保険室担当者と共に実施した窓口担当者研修会やケアプラン点検、災害時避難行動要支援者個別支援計画策定等の事業をとおり、把握された在宅医療・介護連携の課題について報告いたします。

窓口担当者 研修会より	<p>・介護保険の理念、最大の目標「利用者本人の自立した生活」を実現するために、本人の努力（重度化防止）、家族の援助や地域の見守りがあり、その上で必要な医療や介護保険サービスを活用するという基本的なことが、窓口を担当する職員、住民の間で浸透していないのではないか？ →窓口相談の際に、利用したいサービスの聞き取りで終わってしまわないよう、介護保険認定申請書裏面の聞き取りシートの改訂や介護保険利用前に知ってもらいたいことをまとめたリーフレットを作成した。 ※別紙をご参照ください。</p>
ケアプラン チェックより	<p>・居宅療養管理指導について、サービスがケアプランに位置づけられる前に利用者とサービス事業者間で先行して行われている事例があった。 →「介護保険サービスは、ケアプランに位置付けられたのちに、利用できるサービス」であることを利用者、サービス事業者が理解していることが必要です。今回の報告と該当する事業所へ個別にお伝えします。</p>
避難行動要支援者 個別避難計画作成 モデル事業より	<p>・今年度は、災害時の避難行動要支援者に係る「個別避難計画作成モデル事業」に取り組みました。各地域1～2町内・集落を選定し、市、区長や民生委員、自治会役員、自主防災役員と介護支援専門員が連携し、災害時に避難する際、支援が必要な方について、個別に避難計画を作成するものです。避難時の要支援者一人ひとりの状況を熟知し、日頃から信頼関係を築いている介護支援専門員が助言者となり、より実行性の高い計画を作成することができます。また、避難先でも治療を継続するためには、医療との連携が欠かせません。</p>